

## 平成 27 年度青森県合同輸血療法委員会の活動紹介

【経緯】“安全で適正な輸血療法の推進”を目的として、青森県では平成 12 年度より輸血医療を行う医療関係者、赤十字血液センター、行政(青森県健康福祉部医療薬務課)が一堂に会する“青森県輸血療法委員会合同会議”を設立し、その活動は現在に至っている。また平成 18 年度～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度には厚労省研究事業「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」に採択され、並行して活動を行ってきた。平成 27 年度も厚労省研究事業に採択され、青森県主催の「青森県輸血療法委員会合同会議」活動と厚労省研究事業活動の両者を合わせて行ったので、その概略を紹介する。

### 【活動】

#### 1. アンケート調査

年間血液製剤供給数が 100 袋以上の施設を対象として、下記の項目について調査している。

- ① 輸血管理体制
- ② 血液製剤使用状況
- ③ 貯血式自己血輸血
- ④ 血液製剤年間使用量（病床規模別・病院機能別平均使用量との比較）
- ⑤ 輸血管理料
- ⑥ 輸血前検体保管と輸血前後感染症検査
- ⑦ 緊急・大量出血時の輸血体制
- ⑧ 学会認定・看護師制度
- ⑨ 輸血におけるインシデント・アクシデント
- ⑩ 血漿分画製剤の管理・使用状況

\* これらの調査結果については、病床規模別に分類し、各施設の参考とした。  
(分類：19 床以下の診療所、20～199 床、200～499 床、500 床以上)

#### 2. 青森県輸血療法委員会合同会議

平成 27 年 11 月 21 日（土）開催

- 1)アンケート調査結果の報告
- 2)参加各施設における問題点と解決方法の共有を、フリーディスカッション形式で行った

### 3. 安全な輸血療法を行うための研修会

平成 27 年 11 月 21 日（土）開催

形 式：全員参加型研修会 “こんなときどうする？”

事例 1：輸血製剤の払い出しに潜むリスク

事例 2：輸血実施前のダブルチェックに潜むリスク

事例 3：不適合輸血が起きた場合の対応方法

### 4. 出張講演会

県内の医療機関には輸血専門家が少なく、また輸血関連研修会等にも参加できず、輸血医療について学ぶ機会が少ないことが明らかとなった。これを受けて合同委員会では、平成 20 年度より輸血専門家（輸血認定医、認定輸血検査技師、学会認定看護師等）が施設に出向いて行う“出張講演会”を実施している。平成 27 年度も県内 3 施設で実施した。

事前に施設からの講演希望内容を聞き取り、また合同委員会として、その施設に必要と思われる事項や最新情報等を検討して講演プログラムを作成した。講演前には施設の輸血部門を視察し、現場担当者と意見交換を行い（ミニ I&A）、その結果を講演内容に反映させるように工夫した。

講演会には施設管理者・院長や各部門責任者が出席することが多く、その場で問題点を明らかにすることで、迅速に業務改善に繋がるが多々あり極めて有意義である。

今年度実施した出張講演会の参加職種・参加者数は以下の如くである。

	病床数	参加者総数	医師	看護師	検査技師	薬剤師	その他
A 病院	320	47	4	39	3	0	1
B 病院	171	85	8	58	3	3	14
C 病院	250	74	18	44	4	6	2

### 5. 輸血に関わる医療職のスキルアップ研修会

各施設において安全で適正な輸血医療を実施するためには、各職種の知識や技術を確かなものとしレベルアップすることが不可欠である。合同委員会では輸血認定医、認定輸血検査技師、学会認定輸血看護師が中心となり、各職種に対するスキルアップ研修会を企画した。

#### 1) 看護師に対する研修会

青森県では学会認定看護師数が年々増加し全国トップクラスである。資格

を取得した看護師のスキルアップのための研修会を企画するとともに、資格取得を目指す看護師に対する受験対策としての勉強会を企画した。

平成 27 年 10 月 31 日（土）開催

① 認定看護師部会主催ブラッシュアップ研修会

対 象：学会認定看護師資格取得者（参加者 52 名）

内 容：輸血前後感染症検査

看護師教育

学会報告

緊急輸血・大量出血に対する輸血

② 学会認定・臨床輸血看護師受験者のための勉強会（参加者 27 名、内受験予定者 12 名）

対 象：学会認定看護師受験予定者

内 容：血液製剤の種類

輸血に関する検査

輸血副作用とその対応

新生児・小児への輸血、造血幹細胞移植

輸血の実際

平成 28 年 3 月 5 日（土）開催

③ 診療所施設における輸血療法への理解を深めるための研修会

対 象：診療所等の小規模施設看護師（11 の小規模施設から 24 名参加）

内 容：輸血手順書

輸血副作用

輸血の実際

外来輸血の注意点

輸血手技の実演形式研修とディスカッション

2) 検査技師に対する研修会

青森県内には 14 名の認定輸血検査技師が在籍するが、その多くが 50 歳以上であり、若手の認定輸血検査技師を育成することが喫緊の課題である。そこで比較的知識の浅い検査技師に対する基礎教育と、資格取得を目指す技師に対する研修会を行うこととした。

① 認定輸血検査技師受験希望者に対する研修会

平成 27 年 7 月 25 日（土）開催（参加者 7 名）

内 容：講演「日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師試験について」

(講師：福島県立医科大学 奥津美穂先生)

実務研修 (血液型検査、直接抗グロブリン試験—酸解離)

② 輸血検査への理解を深めるための研修会

平成 28 年 2 月 20 日 (土) 開催 (参加者 41 名)

内 容：青森県における認定輸血検査技師の現状

困った症例「吸着操作に苦慮した抗体の 1 症例」

講演「輸血検査：標準法と異常反応への対処法」

(講師：福島県立総合衛生学院 安田広康先生)

6. 青森県合同輸血療法委員会会議

平成 28 年 3 月 2 日 (水) 開催

1) 会議

① 平成 27 年度厚労省研究事業の説明

② 出張講演会について

③ 研修会 (検査技師関連) 報告

④ 研修会、部会報告 (認定看護師部会から)

⑤ 輸血かわら版について

⑥ その他 (診療所対象研修会、研修医セミナー)

2) 特別講演

「TRALI と TACO の鑑別診断と治療のためのガイドライン～ベッドサイドの安全な輸血は看護師から～」

(講師 東京慈恵会医科大学附属病院輸血部診療部長 田崎哲典先生)

7. 学会認定看護師部会活動

平成 26 年 11 月に、青森県合同輸血療法委員会下部組織として“学会認定看護師部会”を設立した。

第 1 回会議(平成 27 年 11 月 21 日開催)：参加者 20 名

第 2 回会議 (平成 28 年 3 月 2 日開催)：参加者 43 名

活動：下記研修会の企画・運営を行った

①学会認定看護師資格取得者のためのブラッシュアップセミナー

②学会認定・臨床輸血看護師受験予定者に対する受験対策勉強会

③安全な輸血医療を行うための研修会 (全員参加型研修会)